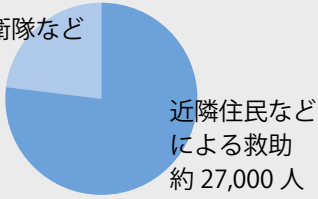


「地域のつながり」で備える

阪神・淡路大震災時の救助形態

消防・警察・自衛隊など
による救助
約 8,000 人



近隣住民など
による救助
約 27,000 人

全体 (N=約 35,000 人)

阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋などから救助された約 35,000 人のうち、約 8 割が家族や近隣住民によって救い出されました。消防・警察・自衛隊など行政による救助は 2 割程度にすぎません。

一刻を争うとき、力になるのは身近な地域のチカラです。

日頃から「地域のつながり」を大切にしながら災害に備える、町内会や消防団を紹介します。

町内会で つながる

地域のつながりが、いざというときに役立ちます

ご近所の方へのあいさつから始めてみませんか？

厚別中央町内会連合会では、災害時に地域の人たちが支え合うためには、**日頃のつながりが大切**だと考え、昨年「防災・福祉支えあい活動」に取り組んでいます。



要援護者のご夫婦

「要援護者」として手を挙げるのは、恥ずかしいし、勇気が要りました。しかし、**普段から近所の方が声を掛けてくれていた**のでお願いすることにしました。今は、地域で守ってもらえるという安心感と心強さを感じています。

防災・福祉支えあい活動

災害時や日常生活で緊急事態が発生したときに、自分や家族の力だけでは不安が残る高齢者や障がいのある方などを支えるため、あらかじめ「支援が必要な人(要援護者)」と「支援する人(支援者)」を決めておく仕組みです。



支援者の石井敏男さん

「支援者」になることはハードルが高く、プレッシャーを感じる方もいると思います。しかし、**大切なのは日常の声掛け、あいさつ**です。日頃のつながりが、いざというときに役立つと思います。

消防団で つながる

地域とのつながりでまちを守る！消防団で活動しませんか？

地域に密着し、住民の安心と安全を守る消防団。

他に仕事を持ちながら火災や大規模災害発生時に、消火・救助活動を行う、地域における消防防災のリーダーです。

過去の災害においても消防団員が住民の救助活動を献身的に行い、多くの人命を助けています。



普段はグループホーム職員として働いている、厚別西分団の酒井崇さん

町内会との防災訓練や一人暮らしの高齢者宅への防火訪問など、消防団の活動を通して**地域の人たちとのつながりができ、お互いに助け合える関係が築けた**と思います。

また、消防団の活動を通して身に付けた知識や技術は、まちを守るだけでなく、家族を守り仕事にも生かせると思います。

消防団員募集中！

区内に居住または通勤・通学されている 18 歳以上の方を募集しています。

詳しくは厚別消防署までお問い合わせください！ 厚別消防署 ☎92-2100